

国史跡・野崎城跡を歩く

① 北條神社〜野崎観音〜南條神社

日本三大怨霊の
ひとつになった
菅原道真

京橋からJR学研都市線に乗り、今回は大東市にある野崎駅で下車。初めに北條神社を参拝してから、そのあと野崎観音から飯盛山へ入り、飯盛城跡をたどりながら四条駅へ抜けるコースを設定した。GPS上では約14kmの道になるはずだ。野崎駅から北條神社の鳥居まで、歩いて25分。境内の撮影許可を取っていないため、鳥居へ続く階段の下からシャッターを切る。

北條神社は菅田別命（ほんだわかひのみこと）と菅原道真を主祭神とする、北條地区の氏神である。

菅田別命とは第15代応神天皇のことで、八幡大神とも呼ばれ全国の八幡宮に祀られている。

菅原道真は、平安時代の学者であり政治家。文武両道に優れた能力を妬まれた挙句、冤罪を着せられて福岡の太宰府へ左遷された。死後の怨念はすさまじく、都に災厄をもたらす怨霊と化したと

いう。崇徳天皇、平将門（たいらのちかむね）と並んで、日本三大怨霊に数えられている。

野崎観音から 飯盛山へ

有縁無縁問わず、すべてのものに感謝を捧げる「野崎参り」で知られる野崎観音は曹洞宗のお寺で、正式には福聚山慈眼寺という。

奈良時代、インドから渡ってきた婆羅門僧正が行基に向かって「野崎はサルナートに似ている」と語ったという。サルナートは、釈迦が初めて佛法を説いた地と伝わる。その言葉を受けた行基が、白樺



南條神社

で十一面観音を刻んで安置したのが野崎観音の始まりとされている。

永禄8年（1565）に起こった「永禄の政変」によって寺の殆どが焼失。残ったのは、本尊の観音像だけだった。その後、元禄2年（1661）に、青殿和尚が復興し、元禄宝永（1688〜1710）の頃に「野崎参り」が盛んになった。

同じ境内には南條神社がある。御祭神の牛頭大王は怨霊や病魔を打ち祓い、素盞鳴命（すさのおのみこと）は病魔を退散させる神威をもって尊

崇される。いずれも病魔を打ち払う神ならば、長引くコロナ禍も退散させてほしい願いも一緒に道中の安全を祈願した。

ところで、前回訪れたときには、境内にたくさん猫が暮らしていたが、今回は一匹も見かけなかった。

これからいよいよ、飯盛城跡へ続く登山道へ入っていく。10mも登らないうところに、休憩所があった。じつは取材に訪れた日は気温・湿度ともに高く、北條神社を回って野崎観音にたどり着いたときは、すでに少々バテ気味だった。お昼にはまだ早い時間だったが、山に入ってしまうとゆっくり食事をとれる場所があるかどうか分からない。

虫が多い季節でもある。なるべく立ち止まらず、一気に歩きとおしてしまいたかった（結局、途中で休憩せざるを得なかったが…）。

食べられるときに食べておこうと、持参した赤飯のバックをここで2個たいらげた。腹が満たされると体力も回復したようだ。ゴミはもちろん持ち帰るのが山のマナー。空のバックをリュック袋にねじ込んで、リュックの底へ押し込む。

耳元を虫がブンブン飛び回っているさいが、市指定文化財第2号の「石造九重層塔」を見てから山へ入ることにしよう。



北條神社の鳥居